

## 「新指定等・新登録・新選定」答申物件

### 《史跡名勝天然記念物の新指定》

#### 【史跡】 7件

ちゅうせいやまじろ  
「中世山城の遺構を良好に残し、戦国期から明治期まで存続した稀有な城郭」

#### 1 なべくらじょうあと とおのし 鍋倉城跡【岩手県遠野市】

岩手県内屈指の大規模な中世山城の遺構を良好に残し、近世期も大きく改変せずを使用して、盛岡に次ぐ政治経済の中心地であったとのおのなんぶけ遠野南部家の拠点となった。戦国期から明治期まで存続した稀有な城郭である。



提供：遠野市

しょうないへいや  
「庄内平野の南東部に位置する旧東田川郡の郡役所と郡会議事堂」

#### 2 きゅうひがしがわぐんやくしよ ぐんかいぎじどう つるおかし 旧東田川郡役所及び郡会議事堂【山形県鶴岡市】

庄内平野の南東部に位置する、明治20年（1887）に和風木造で再建された旧東田川郡役所と明治36年（1903）に洋風で建築された旧郡会議事堂。1920年代建築の郡営電気事業を引き継いだ電気事業組合の倉庫も残る。東田川郡は明治11年（1878）の郡区町村編制法の実施により置かれた。



提供：鶴岡市

「戦国時代から江戸時代の城の構造と変遷を知ることができる山城跡」

#### 3 からすやまじょうあと なすからすやまし 烏山城跡【栃木県那須烏山市】

戦国時代に那須氏によって築かれた山城。発掘調査成果と古文書や絵図から、15世紀後半から江戸時代の城の構造と築城技術を知ることができることに加え、山城の形態や機能の変遷を知る上で重要である。



提供：那須烏山市

「我が国最大規模の上円下方墳。発掘調査により構築方法や技術系譜が判明」

4 山王塚古墳【埼玉県川越市】

我が国最大規模の上円下方墳であり、その形状や構築方法は、武蔵国の地域的な要素と畿内的な要素の双方が確認される。武蔵国における最終段階の大型古墳のひとつであり、大型古墳築造の終焉を考える上でも重要である。



提供：川越市

「6世紀から10世紀に稼働し、武蔵国分寺の瓦生産も担った東日本最大級の窯跡群」

5 南比企窯跡【埼玉県比企郡鳩山町】

6世紀から10世紀に稼働した総数500基を超える大規模な窯跡群。7世紀後半以降、武蔵国府や郡家等に須恵器や瓦を供給し、8世紀中頃には武蔵国分寺創建瓦を生産した。関東の窯業生産の中心を担うとともに、周辺地域にも技術的影響を与えた窯跡として重要である。



提供：鳩山町

「大分県南部を流れる番匠川河口近くの八幡山に築かれた中世山城の構造をもつ近世城郭」

6 佐伯城跡【大分県佐伯市】

慶長6年（1601）に豊後国南部の佐伯へ入部した毛利高政が築いた近世城郭。番匠川河口付近の八幡山（標高146m）の山頂部に本丸、二の丸等の曲輪群、山麓に三の丸を配置し、石敷きの城道が両者を結ぶ。中世山城の構造をもち、高石垣等の近世築城技術を融合させた城郭である。



提供：佐伯市



「大正12年に開庁した、<sup>おしまいかいきょう</sup>大島海峡防備のため設置された陸軍の要塞跡」

7 <sup>あまみおしまようさいあと</sup>奄美大島要塞跡【<sup>おしまぐんせとうちちよう</sup>鹿児島県大島郡瀬戸内町】

大正12年（1923）に開庁した、大島海峡防備のため設置された陸軍の要塞跡。<sup>おがさわらしょとう</sup>小笠原諸島の<sup>ちじまようさい</sup>父島要塞等とともに設置。奄美大島の要塞司令部近くに置かれた<sup>てあんだんやくほんこあと</sup>手安弾薬本庫跡、<sup>にしこみほうだいあと</sup>海峡西口の西古見砲台跡及び<sup>かけろまじま</sup>加計呂麻島の<sup>あんきやばほうだいあと</sup>海峡東口の安脚場砲台跡からなる。



提供：瀬戸内町

《史跡名勝天然記念物の追加指定及び名称変更》

「<sup>かごしまはんしゅしまづけ</sup>鹿児島藩主島津家の居城。「<sup>しろやま</sup>城山」に<sup>はんちよう</sup>居館と藩庁の機能をもつ<sup>はんちよう</sup>麓の本丸・二之丸を追加」

1 <sup>かごしまじょうあと</sup>鹿児島城跡【<sup>かごしまし</sup>鹿児島県鹿児島市】

鹿児島城跡は、シラス台地の南端に築かれた中世山城である<sup>うえやまじょうあと</sup>上山城跡（城山）を中心とし、近世にはその麓が島津氏の居城として拡張された。近代には西南戦争も経験した重要な城郭である。



提供：鹿児島県

《登録記念物の新登録》

【名勝地関係】 2件

「<sup>ろがん</sup>商家の別邸に江戸時代に整えられた、<sup>ちせんていえん</sup>露岩を取り込んだ池泉庭園」

1 <sup>しみずしていえん</sup>清水氏庭園【<sup>かさおかし</sup>岡山県笠岡市】

商家の別邸に江戸時代に整えられた池泉庭園。17世紀の<sup>おえはましんでん</sup>生江浜新田干拓後に造られたと考えられ、干拓前は海岸線であった地に位置する。背後に控える急斜面はかつての岸壁で、その前に岩礁由来の露岩やその一部を取り込んだ<sup>えんち</sup>園池が広がる。



提供：笠岡市

さかのせきはんと  
「佐賀関半島の南岸に所在する黒い礫海岸と沿岸に点在する岩礁から成る風景」

2 黒ヶ浜及びビシャゴ岩【大分県大分市】

大分県東部、佐賀関半島の先端部に近い南岸の<sup>おおぐろ</sup>大黒地区に所在する黒い礫海岸と沿岸に点在する岩礁から成る風景で、沿岸航行の安全を見守るビシャゴ岩の伝説とあいまって、特に近世以降、広く知られてきた海岸の景勝地。



提供：大分市

《重要文化的景観の新選定》

「大分県南西部の丘陵地帯における<sup>かんがいすいろ</sup>灌漑水路開発による農村の変遷を伝える文化的景観」

1 緒方川と緒方盆地の農村景観【大分県豊後大野市】

大分県南西部に位置する豊後大野市の中央西方、<sup>あそがいらんざん</sup>阿蘇外輪山より連なる<sup>ようけつぎょうかいがん</sup>溶結凝灰岩が覆う丘陵地帯に開かれた<sup>かがんだんきゅう</sup>河岸段丘において、水路開削を通して稲作と文化を発展させてきた集落の変遷を伝える文化的景観である。



提供：豊後大野市